

# 1 自己評価及び外部評価票

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600044		
法人名	株式会社サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインあてらグループホーム		
所在地	長野県木曾郡大桑村野尻931-1		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.nsvakvo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigvo=2092600044">http://kaigo.nsvakvo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigvo=2092600044</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク		
所在地	長野県松本市巾上9-9		
訪問調査日	平成30年3月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地に落ち着いた建物、庭園を散歩しながら木曾駒を眺め季節の移り変わりを利用者と一緒に感じています。中庭の畑で採れる季節の野菜が食卓に並びます。食卓は麦ごはん野菜多めの献立を用意し、お茶タイムは午前には手作りヨーグルト、午後は手作りお菓子か市販のお菓子を提供しています。施設ではありませんが、もう一つの家として家庭的な雰囲気を大切にしながら、職員も家族の一人として制服ではなく普段着で過ごしています。感染症予防にも心がけ、一日2回の定時のトイレ掃除を行い清潔に心がけています。お茶がらを煮出したうがい薬を使い、うがいを奨励し絶えず実施しています。寒さ厳しい地域ではありませんが、床暖房が入り、上履きを履かなくても良い環境を整えています。上履きが滑って転倒するなどの予防もかねて上履きを使用していません。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

地域からの要望に応じて、開設9年目を迎えている。株式会社サンシャインライフの介護理念及びサンシャインあてらグループホームの理念の「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」を基に、全体職員会を毎月開催し、理念を会議資料に明記し運営者からは職員に周知し、浸透に向けた取り組みを図っている。生活の主体は、入居者でありその人らしくあり続けられるよう、ひもときながらミーティングや日々の暮らしの中から思いや意向を把握し、全職員間で共有に努めている。地区の清掃作業や祭り等に積極的に参加し、また地域のボランティアとの関わりが多く、事業所の力を地域に貢献され、地域と共に生きていく事業所を目指し取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(すみれ)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

ユニット名( さくら )

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設のマニュアルの中に入れてたりスタッフルームに貼り、また管理者の指導を受けながら理念を共有し、実践出来る様心がけている。	株式会社サンシャインライフの理念と共にグループホームあてらの理念及び基本方針に管理者・職員は基づく。月1回開催される全体職員会の会議資料には、理念が明記しており、社長から講話があり全職員共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事に参加したり地域の方に施設内の行事に参加して頂いたりする事で地域とのつながりを保っている。	自治会に加入し、地域の草刈り等の清掃作業や五平まつり等の催しに参加している。サンシャイングループ併設のショートステイと協同で納涼祭やクリスマス等を開催し、保育園児やボランティア受け入れ等地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設の行事への参加を地域の方に呼びかけ参加をして頂く事で利用者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	月に一回の会議に参加し利用者の生活状況、サービスの実際等を報告し意見を頂いている。	利用者の生活状況や事業所の事故報告・ヒヤリハットなど課題等報告し、運営について話し合いを行っている。地域の諸問題等も出され共に検討されている。話し合われた内容は、全職員に報告されて共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	推進協議会の委員をお願いし意見を頂いている。	情報交換や新規入居者の相談等行ったり、併設のショートステイに訪問された時も事業所に立ち寄るなど、日常的に担当課や地域包括支援センターとの協力関係を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体職員会やミーティング等で周知し厳守に取り組んでいる。	全体職員会やミーティング時等にて、言葉のやり取りや身体拘束について、職員間で確認合っている。めまい等身体状態に応じ、家族との話し合いを基に夜間のみセンサーマットを使用する入居者には、記録を付けて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体職員会で話し合い職員が意識し合い注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	チラシを配布した事がありますが、理解についてはまちまちです。これからの課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族にはマニュアルで説明を行い理解納得を図っている。利用者家族の考えを聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入所契約を結ぶ時、苦情窓口について説明をさせて頂いている。家族の来所時意見を聞き反映に努めている。	家族代表者が運営推進会議のメンバーとなっており、また家族等の来所時には、入居者と職員との関わり方などの意見を頂いている。家族宅への訪問や、電話などで意見を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体職員会、ミーティング等で意見を聞く機会を設けている。	全体職員会にて社長や施設長・職員との意見交換を行い運営に反映できるように努めている。社長・施設長との面接は年1回実施され意見・要望など聴いている。夜勤勤務時間の見直しなど行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	夜勤手当について要望をし考えるとの回答を得ている。勤務年数の手当を要求している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設外の研修を行いその勉強会を行っている。他施設での研修は自施設とのタイミングが合わず行われなかった。感染症の心配が無くなった時にとの返事をもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者の運営委員を務めている事を通じて情報の支援や交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に面談を行い思いや要望等を聞いた上で安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に面談を行い要望等を聞いたり施設を見学し環境を見て頂き安心して頂ける様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	人生の先輩として、本人と共同し関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御家族と相談しながら連携し本人を支えていく関係を築く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族と相談しながら連携し本人を支えていく関係を築く様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者同士の関係を把握した上で、お互いが支え合ったり助け合ったり出来る様支援に努めている。	入居時にケアマネージャーや家族からの情報を基に把握している。友達の訪問があり一緒に外出するなど日常生活の中で普通に支援している。更に入居者にとって、地域との関係性が続くよう期待する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握した上で、お互いが支え合ったり助け合ったり出来る様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも相談等支援していく事を伝えている。他施設へ移られた方の訪問を考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ミーティングや日々の生活の中で把握し本人と家族からも情報を得ている。	言葉かけによる顔の表情や日々の会話の中から思いや願いを聞き出している。淋しいので話のできる人と一緒にいたい・音楽をかけリズムで体を揺らしたいなど個別記録に記載し、ケア会議等で本人の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ミーティングや日々の生活の中で把握し本人と家族からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ミーティングや日々の生活の中で把握し本人と家族からも情報を得ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、職員に意見を求め、御家族の意見も反映する様にしている。	今までの生活歴や本人の希望・家族の意向等を丁寧に聴き取り、日々の生活から個々の記録や業務日誌の記録等を基にアセスメント・モニタリングを行いながら、本人・家族・担当者等で計画を作成している。職員間で協議され、其々のアイデアを反映し新鮮な目で計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡記録を職員間で共有周知し活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの希望に応じ、外泊や外出の希望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベント、納涼祭等には地域住民の支援をいただき参加し楽しんでいる。職員も楽しんでいる。地域の運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診サービスに努め、状態の変化の際は、御家族も様子を見ながら、受診に付き添ってもらっている。悪化した場合の対応を御家族を中心に決めさせてもらっている。	本人・家族の意向を大切に、家族対応で受診している。受診後は報告があり業務日誌に状況を記載している。歯科診療は、必要に応じて通院及び住診を受け適切な医療が受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護職に伝え主治医の指示や受診ができるよう支援している。また看護に即した介護の方法について看護師から指導を受け利用者への気づきができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行ける職員が、誰でも寄ってみて励ましたり施設の様子を教えたり、病院での様子を職員で共有し医師と退院のタイミングを図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用申込、入所契約時に本人や家族と話し合い、主治医の指示連携に努めている。状態の変化のあった時は御家族と主治医との連絡を密にする。	入居時に終末期の対応について及び重度化した場合の指針を家族等に確認しており、家族等の要望に沿って対応している。職員に対して、重度化や終末期の研修を受講するなど精神的なケアに取り組まれる事を期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員が実践力を身につけるため研修を実施している。また介護の浅い職員には、個人的に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を消防署、地域住民の協力で年間2回実施した。	年2回消防署指導の下、地域住民の協力を得て救急法や避難訓練を行っている。あてら地区の避難場所であり、地区の協力体制も整っている。	今後、立地条件等からの夜間想定での避難訓練や訓練後の課題や振り返りを全職員で行い、入居者及び職員の安否確認の方法を全職員に周知される取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親しみのある言葉かけを心がけ、家庭的な和やかな雰囲気になる様にしている。	株式会社サンシャインライフの介護理念には、“人の尊厳を大切にする介護”を明記して、「…で困るよねえ」でなく「一人ひとりをよく見て対応しよう」と、ミーティング時等、職員間で再確認し合っている。尊厳に関する研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り自己決定できるよう支援している。家族へ電話、散歩は本人の希望にそって支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な流れは出来ているが個別ケアを心がけて支援している。利用者への声かけを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に用意できるよう常日頃心がけている。必要品の申し出があると希望で職員が買物に行ったり、買い物同行支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に買い物に出かける。調理、盛り付け、片づけ等一緒に係わっている。現状を把握し、糖分、塩分を控えた食事を利用者と職員が楽しんで食事をしている。	下ごしらえ・盛付・片づけ等一緒に関わり、入居者の状況に応じて支援している。事業所の畑で収穫された野菜や近所からのお裾分けなどを活用している。メニューについては、併設ショートステイの管理栄養士からの指導もあり、栄養面に配慮した食事作りに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	楽しい雰囲気ですら食事をし、食事量を点検し、変化がある時は栄養摂取や水分確保が出来る様看護師と共に工夫する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	茶がらを煮だした液を常に用意し、食後、就寝前、外出後等口腔ケアへの実施、声掛けを行っている。また本人の状態に応じて職員が介助。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	オムツの会社の専門の方の指導により、1カ月のデータを取り、個人により合った排泄パターンをみつけて支援している。	ケアチェック表に、排泄の状況を記載しており、一人ひとりの状況に併せて対応している。必要に応じて尿量の測定や時間等を測り、介護時間や排泄用品を決めている。業者の研修があり自立に向けた排泄介護に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や食材を工夫している。(手作りヨーグルト、豆乳、野菜を多く取り入れている。)協力医に状態を説明し指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	本人の希望を大切に気持ちよく入浴していただけるよう支援している。面会時は後したり、御自分で水をためて入られる方もいる。	健康チェックをした上で入浴の可否を行い、週2回以上の入浴がある。浴室には福祉用具等の用意があり、入居者の状況に合わせた入浴支援が行われている。近所から菖蒲を頂き菖蒲湯の提供もあり、入居者に楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状態に応じて休んでいただけるよう支援している。ソファで休んだり畳で横になれる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	本人の状態特変時には協力医に連絡し指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ何時でも確認できるようにしている。薬の変更が有った時は申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その日の状態に合わせて役割、楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	その日の状態に合わせて役割、楽しみを支援している。	一人ひとりの体調に合わせて、寒い日はホームの廊下を散歩したり、温かい日は中庭でゆっくり過ごすなど希望に沿った支援に努めている。お花見やもみじ狩等は皆で外出出来るよう声かけして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望に応じて支援している。預かっている時は支払う時、本人に関わってもらおう等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の気持ちを尊重し支援している。家族等にも理解していただいている。荷物が届いた時などお礼の電話をかけている。携帯電話を所持している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	柔らかな灯り、リビングにソファがあり好きな飲み物を一緒に飲む。季節の草花を生ける。菖蒲湯や四季折々の土地の食べ物等で季節感をあらわしている。	共有の場所は、お雛様を飾ったり季節の草花を生けるなど、季節感を取り入れている。またサンルームから、駒ヶ岳や桜が眺められ、仲間と腰掛けてゆっくりと楽しむ事ができる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	サンルームに畳、リビングにソファがあり自由なスペースを確保し自由に団欒している。居室で気の合った仲間同士団欒している。好きな時に自由にお茶をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物で居心地よく過ごしていただけるよう家族等をお願いしている。本人と家族は自由に部屋作りをしている。	入居時には、家族と一緒に部屋作りを行っている。畳の部屋、家族の位牌、新聞を取っている方など、本人が居心地よく過ごす事ができる部屋作りとなっている。桜が良く見える部屋からは、「桜を見に来て！」とお誘いがあり仲間が桜見物している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員間で情報交換しながらその人らしく生活が送れるよう支援している。職員がお手伝いする気持ちの関係づくりを心がけている。		

(様式4)

事業所名 サンシャインあてらグループホーム

## 目標達成計画

作成日 平成30年3月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・災害対策 防災訓練を消防署、地域住民の協力で年2回、消防署の指導により救急法、火災時の避難訓練を中心に実施。	水害、地震、火災時の、日中・夜間を想定した避難方法を、入所者及び全職員が周知できる避難訓練を行っていく。	地域の防災マップから施設が置かれている地形を知り、水害、地震時はどのような避難対策が必要なのか住み慣れた地域の方々から聴き取り、全職員で話し合い、入所者様及び全職員が常に避難順路、場所対策を把握し、日中・夜間それぞれを想定した避難訓練を行っていく。	24ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。  
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。